



愛をたどり、歴史を知る



AICHI
Historical Tourism

あいち
歴史
観光
城
街道
武将



あいち歴史観光ガイドブック
あいち戦国歴史絵巻

2025年7月改訂

発行 あいちの歴史観光推進協議会
監修 小和田 哲男(静岡大学名誉教授)

AICHI-NAGOYA



イントロ	1
信長・秀吉・家康 三英傑相関図	3
武将のふるさと愛知 ゆかりの武将たち、姫たち	5

コラム 戦国史研究者寄稿文①	
小和田 哲男(静岡大学名誉教授)……	7

武将のふるさとゆかりの地 I

尾張エリア	9
名古屋エリア	13
武将のふるさと愛知 武将・姫ゆかりのモノがたり 【名古屋編】	16
知多エリア	17
西三河エリア	19

コラム 戦国史研究者寄稿文②	
平山 優(歴史学者)……	23

武将のふるさとゆかりの地 II

東三河エリア	25
武将のふるさと愛知 武将・姫ゆかりのモノがたり 【西三河・東三河編】	28

武将ゆかりの祭りイベント	29
--------------	----

お供
つかまつります



ただつぐくん

さあさあ、
こいつと



おだいちちゃん

で、あり
ますぞ



ひでながくん

旅は
道連れと
申すぞ



ひでよしくん

よう
参られた！



のぶながくん

ようこそ



「武将のふるさと愛知」へ

ゆかりの地を訪ねれば
時を超えた戦国絵巻の旅がはじまる。
われらとともに
「武将のふるさと愛知」へ
いざ、参らん！



尾張国、三河国が
ひとつになった愛知県は
戦国三英傑—
織田信長、豊臣秀吉、徳川家康をはじめ
個性豊かな戦国武将を
数多く輩出した「武将のふるさと」じゃ。
そのため愛知県内には
武将ゆかりの城や古戦場、
寺社をはじめ武家文化、
さらにまつり、イベントが豊富にある。

われらに
つづけろ



いえやすくん

交通のご案内



愛知は
ココ！

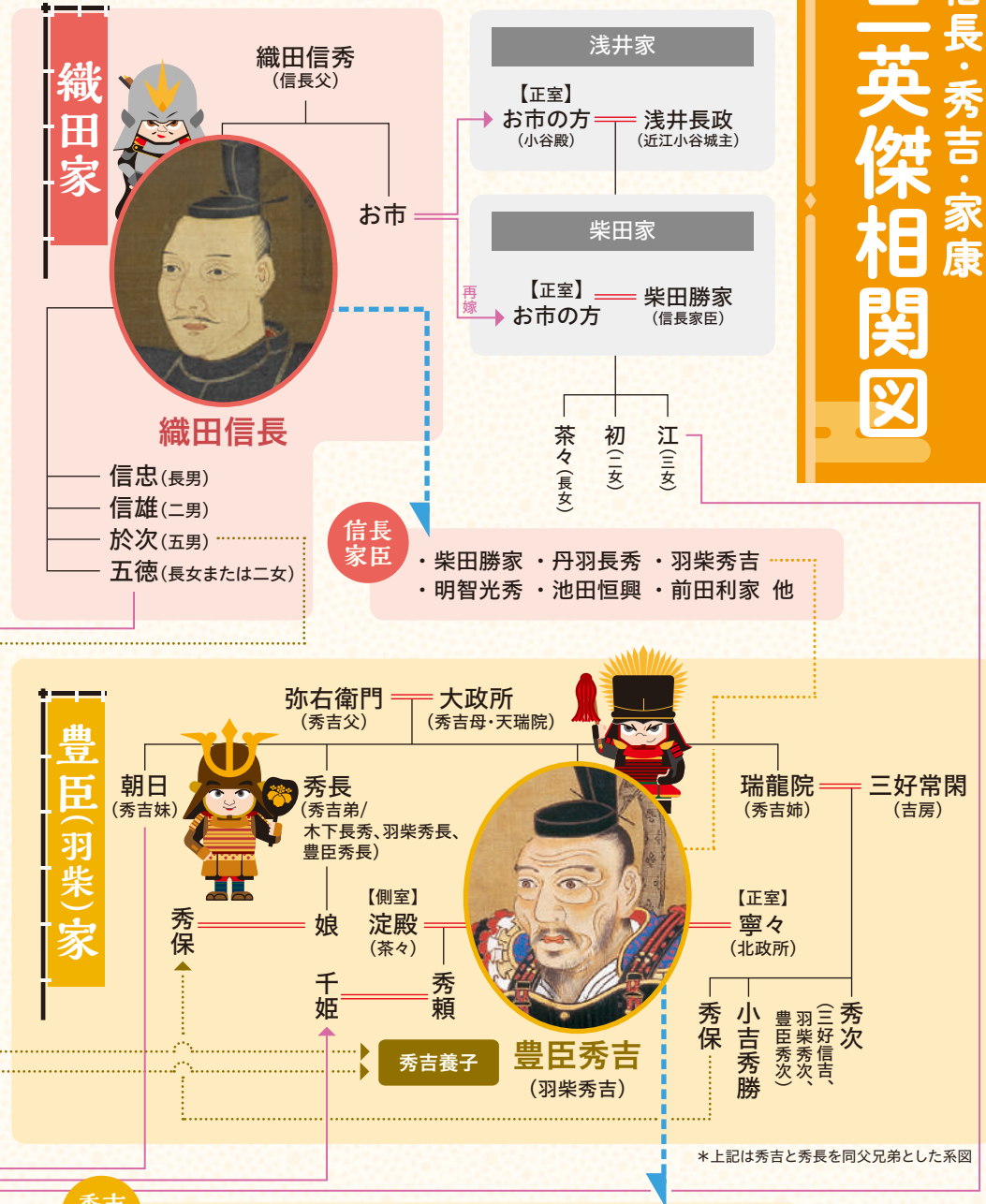
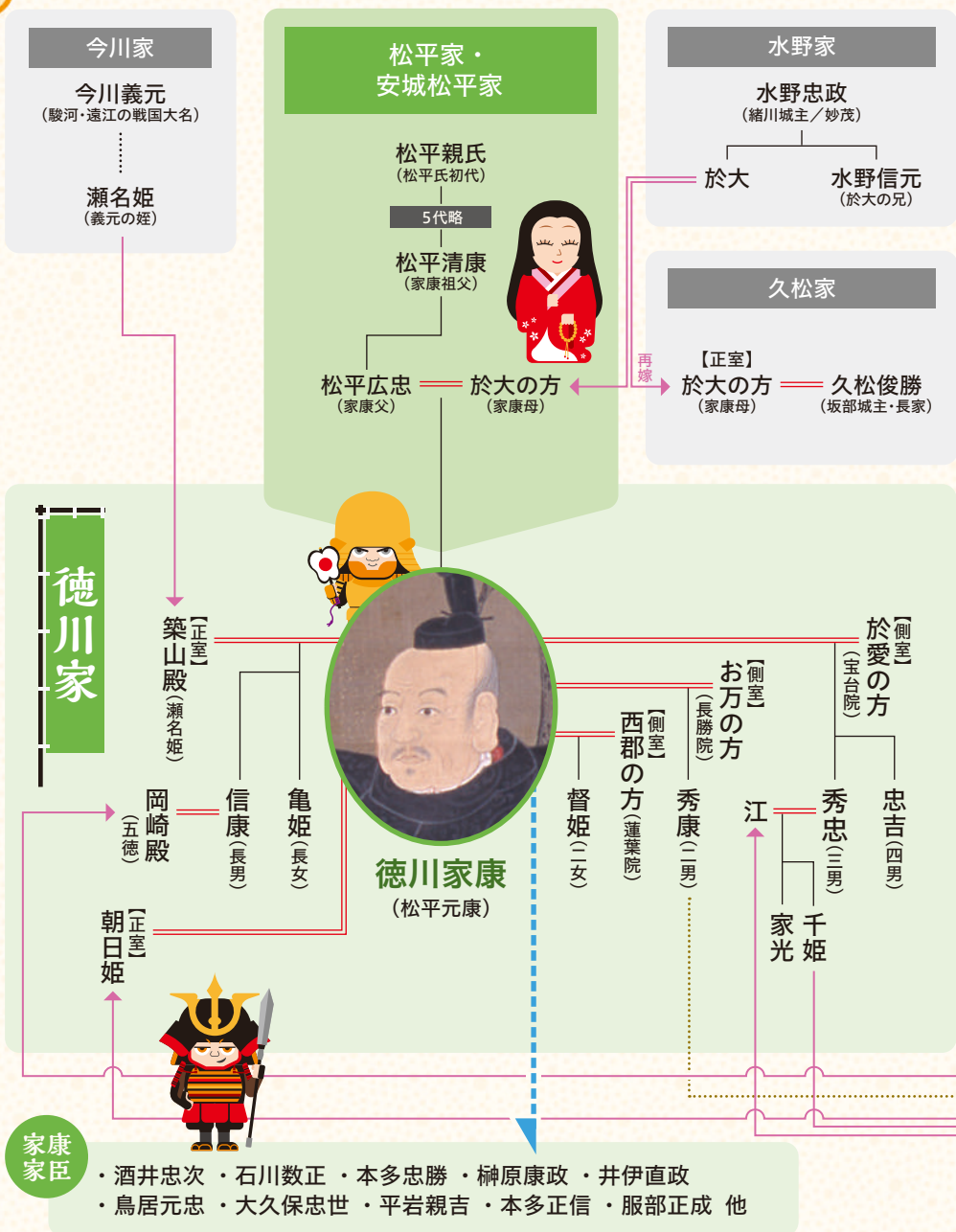
「Aichi Now」
交通アクセスページ



* 各史跡、観光スポット紹介に掲載したQRコードは、愛知県公式観光サイト「Aichi Now」または、各自治体や団体の管理する観光サイトにアクセスします。

* 城の名称や曲輪等の名称は、管理している自治体ごとに「〇〇城」、「〇〇城跡」、「〇〇城址」や「二の丸」、「二ノ丸」、「二之丸」とつけられていますが、この冊子では城の名前は「〇〇城」、曲輪の名称は「の」の字で表記を統一してあります。

信長・秀吉・家康 三英傑相関図



—— 主従関係 —— 婚姻関係 養子

*織田信長画像(神戸市立博物館蔵)、豊臣秀吉画像(名古屋市秀吉清正記念館蔵)、徳川家康画像(岡崎美術博物館蔵)

*戦国期の女性の名前は正確には分からない場合が多く、さまざまな尊称も加わり複数伝えられている。信長妹のお市は市姫とも伝えられ、浅井家に嫁ぎお市の方、小谷殿とも呼ばれた。秀吉の母は通説では「なか」、姉は「とも」とされるが実名は不明とのこと。

*羽柴秀吉は、天正十三年(1585)、閑白に任じられ朝廷より「豊臣」氏を賜り、豊臣氏に改姓したが、名字は終生「羽柴」のままだったとされる。上記相関図では、信長家臣の枠内では「羽柴秀吉」とし、豊臣(羽柴)家の枠内では「豊臣秀吉(羽柴秀吉)」としている。

織田信長 1534年 尾張国勝幡城生まれ(稲沢市、愛西市)
桶狭間の戦い、美濃攻めを経て、室町幕府を再興し勢力を拡大。天下統一を目前にしたが、明智光秀の謀反に遭う。

織田信雄 1558年 尾張国丹羽郡小折村生まれ(江南市)
信長二男。賤ヶ岳の戦い後、家康とともに秀吉と戦う(小牧・長久手の戦い)。

柴田勝家 生年は不明。尾張国下社城または一色城生まれ(名古屋市名東区)
信長死後、秀吉と戦い敗れる(賤ヶ岳の戦い)。

池田恒興 1536年 尾張国海東郡生まれ(詳細は不明)
または同郡荒子生まれ(名古屋市中川区)
母は信長の乳母。清須会議後、秀吉に従属。小牧・長久手の戦いで戦死。

豊臣(羽柴)秀吉
1537年 尾張国愛知郡中村生まれ(名古屋市中村区)
貧農の出だが、信長に仕え出世を果たす。信長死後、ライバルを退け天下を統一する。

豊臣(羽柴)秀長
1540年 尾張国愛知郡中村生まれ(名古屋市中村区)
秀吉の弟。若年時から秀吉を補佐し、その出世を支えやがて天下統一事業の実現にもっとも貢献した。

寧々(ねね/北政所/高台院)
1549年(諸説あり) 尾張国春日井郡朝日村生まれ(愛知県清須市)
秀吉正室。秀吉との間に子供はなかったが、加藤清正や福島正則など秀吉や自身の親類縁者を家臣として養育した。

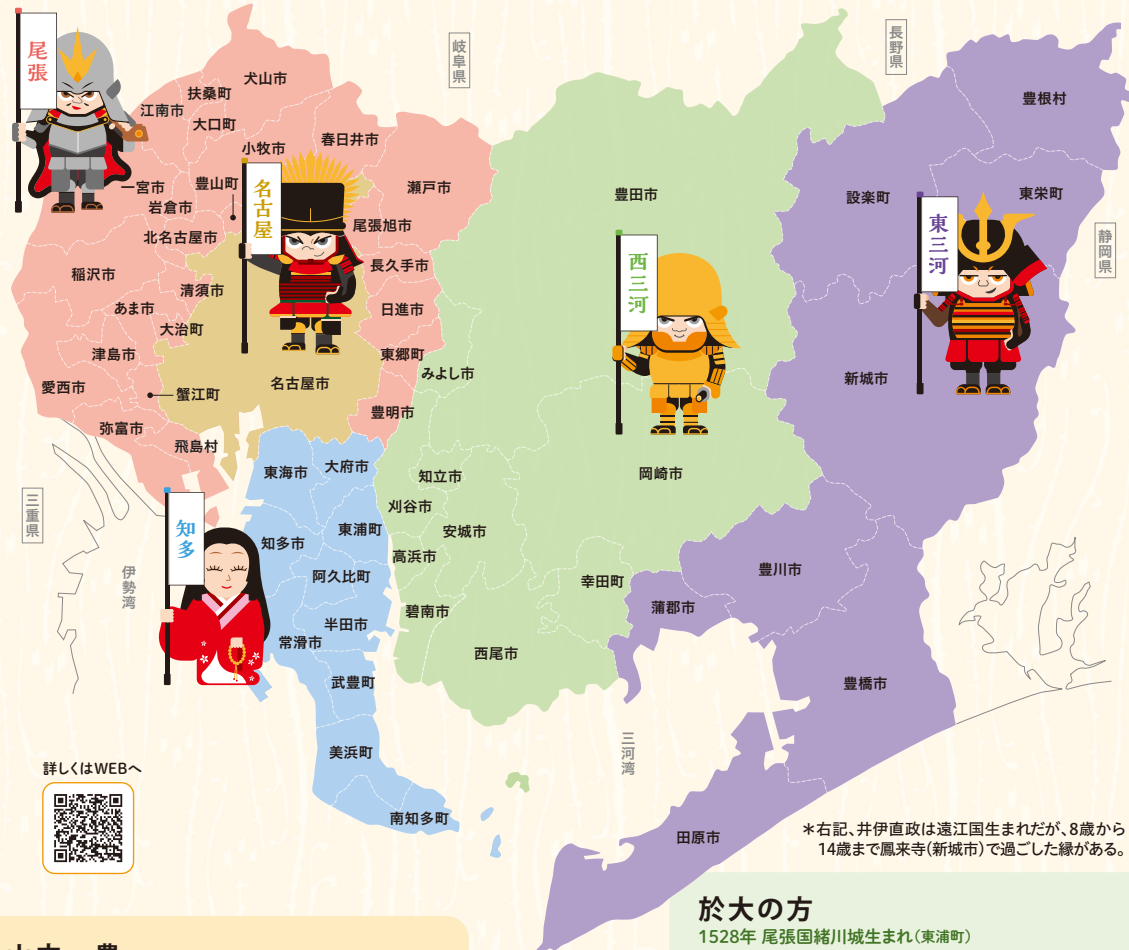
加藤清正
1562年 尾張国愛知郡中村生まれ(名古屋市中村区)
秀吉没後に家康に接近。築城の名手。熊本城の他、名古屋城天守台石垣を築いた。

福島正則 1561年 尾張国海東郡二ツ寺村生まれ(あま市)
秀吉の縁者とされる。秀吉没後に家康に接近。関ヶ原の戦いで活躍。

池田輝政 1564年 尾張国清須生まれ(清須市)
秀吉の天下統一後、吉田城主に。秀吉の命で家康二女・督姫を娶る。

前田利家
1537年 尾張国荒子城または前田城生まれ(名古屋市中川区)
賤ヶ岳の戦い後、秀吉に従属。家康とともに晩年の秀吉を支えた。

お市の方 1547年 尾張国那古野城生まれ(諸説あり)
信長妹。近江小谷城の浅井長政に嫁ぐが離別。清須会議後、柴田勝家に嫁ぐ。



山内一豊
1546年 尾張国黒田城(一宮市)または岩倉生まれ(岩倉市)
秀吉没後に家康に接近。関ヶ原の戦いで功績。

堀尾吉晴
1543年 尾張国丹羽郡御供所村生まれ(大口町)
秀吉に仕え、小田原攻めで功績。秀吉没後に家康に接近。

武将のふるさと愛知

ゆかりの武将たち、姫たち

愛知県は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康一戦国の三英傑とその配下の武将や姫たちを数多く輩出した「武将のふるさと」。彼らは天下静謐・天下泰平を願い、乱世を駆け抜けた。

徳川家康 1542年 三河国岡崎城生まれ(岡崎市)
信長と同盟を結び、数々の戦いに協力。秀吉政権では重鎮の地位を獲得。関ヶ原の戦い後、征夷大將軍に任ぜられ、江戸に幕府を開く。

酒井忠次 1527年 三河国井田城生まれ(岡崎市)
家康若年時から家老として軍事、内政、外交で活躍。徳川四天王の筆頭。

石川数正 生年は不明。三河國小川城生まれ(安城市)
酒井忠次とともに内政、外交に活躍。小牧・長久手の戦い後、徳川家を出奔し秀吉に仕えた。

本多忠勝 1548年 三河国西蔵前城生まれ(岡崎市)
徳川四天王のひとり。生涯57回の合戦に参加し、無敗無傷の勇将だった。

榊原康政 1548年 三河国上野郷生まれ(豊田市)
徳川四天王のひとり。小牧・長久手の戦いの際、秀吉を痛烈に批判した檄文により秀吉を激怒させた。

井伊直政 1561年 遠江国井伊谷生まれ(静岡県浜松市)
徳川四天王のひとり。武田家旧臣を配下に入れた軍団「井伊の赤備え」を率いた。

鳥居元忠 1539年 三河国渡城生まれ(岡崎市)
家康とは幼友達の間柄。関ヶ原の戦いの前哨戦、伏見城籠城戦で奮戦。

大久保忠世 1532年 三河国上和田郷生まれ(岡崎市)
若年時より家康の父広忠に仕える。三方ヶ原の戦いや長篠・設楽原の戦いで活躍。

平岩親吉
1542年 三河国額田郡坂崎村生まれ(幸田町)
家康とは幼友達の間柄。家康長男信康、九男義直の傳(守)役を務めた。

於大の方
1528年 尾張国緒川城生まれ(東浦町)
松平広忠に嫁ぎ家康を産むが、後に広忠と離別。坂部城の久松俊勝(長家)に再嫁。

本多正信 1538年 三河国碧海郡小川村(安城市)
または西尾城(西条城)生まれ(西尾市)
三河一向一揆では一揆側に加担したが、のち許され家康の側近となる。

*右記、井伊直政は遠江国生まれだが、8歳から14歳まで鳳来寺(新城市)で過ごした縁がある。

徳川家康と三河武士の絆

文 小和田 哲男
(静岡大学名誉教授)



▲「徳川十六神将図」(大樹寺蔵/岡崎市): 家康を中心に初期の武功派の家臣十六名を描く。酒井忠次・本多忠勝・榊原康政・井伊直政の四天王に加え、松平康忠・高木清秀・内藤正成・大久保忠世・大久保忠佐・服部正成・鳥居直忠・鳥居元忠・蜂屋貞次・平岩親吉・渡邊守綱・米津常春が描かれている。

「徳川十六将図」と「徳川二十将図」

「徳川十六将図」および「徳川二十将図」という図が伝わっている。十六将図の場合には、家康を上部真ん中にしてその下に十六人、二十将図の場合には、二十人が描か

れている。家康家臣「ベスト16」および「ベスト20」というわけで、そのどちらにも入っているのが、酒井忠次・榊原康政・本多忠勝・井伊直政のいわゆる「四天王」である。このうち、井伊直政を除く三人が三河出身の三河武士である。そのほか、鳥居元忠・本多正信・

平岩親吉・大久保忠世らも、いずれも三河譜代というわけで、家康家臣団の中心が三河武士だったことが明らかである。

三河武士というと、「犬のような忠誠心」といった表現がある。大久保彦左衛門忠教の著わした『三河物語』に、「よくてもあしく

ても御家の犬」とあるのが出典と思われるが、三河武士といえば、「犬のような忠誠心をもった武士」の代名詞のようないわれ方をしており、そのことを実際に示したのが、元龜三年(一五七二)二月二十二日の三方ヶ原の戦い。このときの家康家臣たちの行動である。

家康の身代わりとなって死んでいった家臣たち

家康が武田信玄と戦った三方ヶ原の戦いとき、家康は八〇〇〇いた家臣の一割にあたる八〇〇人失っているが、そのうちの何人かは、家康の身代わりとなって「影武者」のような形で死んでいったといわれている。その一人が夏目広次で、彼は高齡だったので、この日は浜松城で留守を預かっていたが、「家康様が負けて逃げてくるところだ」という情報を耳にするや否や、自分の愛馬にまたがって三方ヶ原に迎えに出

たところ、うまい具合に家康とすれちがい、そのとき、自分は馬を降りて、その馬に家康を乗せて、浜松城にもどらせている。その代わり、夏目広次はそこで武田の兵に首を取られている。また、鈴木久三郎という家臣は、家康から采配を奪い、家康になり代わって敵中に留まって時間かせぎをして家康を逃がし、やはりそこで首を取られている。こうした家臣たちの犠牲によって生きのびた家康は、以後、「家臣こそわが宝」といったいい方をするようになる。

敵対した者も赦す家康の度量

もっとも、家康と三河武士との絆はいつも強固だったわけではない。永祿六年(一五六三)から翌七年にかけての三河一向一揆のときには、家康の家臣でありながら、一揆側に属する者もあり、実際に戦っていた。その一人が本多正信であるが、のち、赦され、家康の腹心として帷幄に加わっていることは周知の通りである。

また、家康は、武田信玄とともに今川氏を滅ぼしたときには今川氏の遺臣を、織田信長とともに武田氏を滅ぼしたときは武田氏の遺臣を、豊臣秀吉とともに北条氏を滅ぼしたときは北条氏の遺臣を自己の家臣団に取り込んでいたのである。



▲三河武士のやかた家康館(岡崎市): 家康の事績と三河武士の活躍をわかりやすく展示する資料館



▲「長篠合戦図屏風」部分(浦野家旧蔵/豊田市郷土資料館蔵): 家康を中心に三河武士たちの活躍が描かれている。

著者プロフィール



小和田 哲男(おわたて つか)

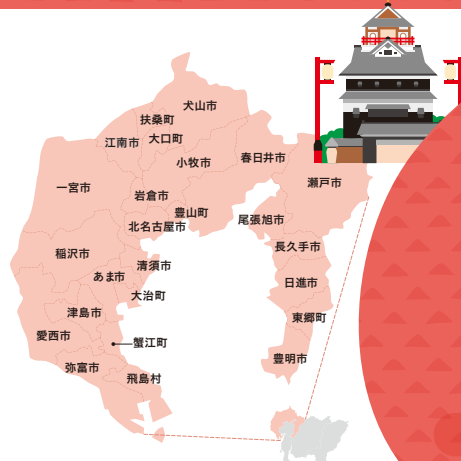
一九四四年静岡市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程満期退学。現在、静岡大学名誉教授、文学博士。NHK大河ドラマでは二〇一四年「軍師官兵衛」、二〇一七年「おんな城主 直虎」、二〇二〇年「麒麟がくる」、二〇二三年「どうする家康」など8作品で時代考証を担当。主著に「徳川家康知られざる実像」「軍師・参謀 戦国時代の演出家たち」など。

尾張

尾張は、愛知県の北西部エリア。戦国の頃は、ワシが生まれ、各地を駆け巡ったエリアじゃ。「桶狭間の戦い」や「小牧・長久手の戦い」ゆかりの城や古戦場が多数あるぞ。



のぶながくん



国宝天守最上階からの眺めは絶景！かな

犬山城

犬山市

木曾川沿いの断崖絶壁に築城された平山城。小牧・長久手の戦いの際には秀吉が入城。江戸時代以降は、尾張藩付家老成瀬家が城主を務めた。現存天守は国宝五城の天守の中でも最古の様式。天守最上階には廻縁と高欄がめぐり、周囲の景色を眺めながら実際に歩ける。また、城の南側には城下町の遺構が広がる。江戸時代の町割りが残る中、江戸期から昭和期までの町屋や屋敷が点在する。食べ歩きも楽しい。

所 犬山市犬山北古券65・2
05686-611711



所 犬山市犬山北古券1・2
05686-611000
(犬山駅観光案内所)



現存する国宝茶席三名席のひとつが間近で見られる！

日本庭園 有楽苑

犬山市

織田信長の弟・有楽斎(長益)が京都建仁寺の塔頭、正伝院に建てた茶室如庵、旧正伝院書院を移築、整備した庭園。茶の湯文化の名建築と四季折々の風情を楽しむ。



所 犬山市犬山御門先1
05686-614608



秀吉が攻めあぐねた家康の陣城

小牧山城

小牧市

永禄六年(一五六三)、織田信長はじめて自ら築城した城。近年発掘調査が進み新発見により近世城郭の原点ともされる。小牧・長久手の戦いの際、羽柴秀吉と対決した徳川家康が陣城として整備。空堀、土塁の遺構が残る。山頂の「小牧山歴史館」、山麓の「れきしるこまき」を併せて見学すると理解が深まる。

所 小牧市堀の内1-1
05687-210712
(小牧山歴史館)
05688-484646
(れきしるこまき)



「長久手の戦い」が学べる記念館が新規オープン

古戦場公園 整備中

長久手市

羽柴(豊臣)秀吉と織田信雄・徳川家康連合軍が対決した小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ、「長久手の戦い」決戦の地。二〇二六年四月、公園内に開館予定の長久手古戦場記念館では、合戦時の史跡地の距離感や臨場感を体感できる。

所 長久手市武蔵塚204
0561560067
全道学習課、再整備について
05616216230
(長久手市郷土資料室・二〇二五年十一月末閉館予定)



長久手古戦場記念館イメージバス

茶室は、国宝茶室如庵を模した建物

色金山歴史公園

長久手市

小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ、「長久手の戦い」で徳川家康が最初に着陣した場所。山頂には

大軍相手に二百名で立ち向かった城

岩崎城

日進市

小牧・長久手の戦いの際、家康に与した丹羽氏次の弟氏重が守備した城。



本丸の井戸跡も残っている

蟹江城

蟹江町

小牧・長久手の戦いの局地戦のひとつ、「蟹江合戦」の主舞台。城は秀吉方に一時占拠されたが、家康方が反撃し奪回。戦いの経緯は歴史民俗資料館の展示資料に詳しい。

所 海部郡蟹江町城1-11-1
05671-9513812
(蟹江町歴史民俗資料館)



近世城下町の ルーツは小牧

現在の日本の多くの都市は近世の城下町を基盤とし、その上に現在の都市が形成されている。その城下町は戦国時代に端を発するが、武士や商人、職人たちを計画的に集住させた近世城下町は、かつては安土城の城下町がルーツとされてきた。しかし、近年信長が安土城以前に築いた小牧山城の城下町こそがその本命と注目されている。発掘調査によれば計画的な町割りや「背割下水」という排水設備の遺構が発掘されているとのこと。



所 瀬戸市定光寺町373
0562-852730



所 春日井市勝川町2143
0568-314214



家康が戦いに際し縁起を担いだ寺
龍源山太清寺
小牧・長久手の戦いの際、徳川家康が「勝川（かちがわ）」という地名が縁起がよいとして、当地の阿弥陀堂で休憩し、その前にあった兜の形に似た塚を見て、全軍に甲冑をつけさせ出陣したといわれる。

春日井市

所 岩倉市本町北門前18
0567-372062



本堂天井、壁面の絵も見どころ
建雲山龍潭寺
岩倉織田家の菩提寺。信長に敗れた城主織田信安の位牌を安置する。小牧・長久手の戦いに際し、徳川家康が滞在したとされている。

岩倉市



家康



阿波徳島の殿様に
なつても故郷を忘れず
日輪山曼陀羅寺
豊臣秀吉に仕えた蜂須賀家政（小

江南市

家康



小口城

大口町

物見櫓がシンボル
小牧・長久手の戦いゆかりの城

信長

所 江南市前飛保町寺町202
0567-541111



六正勝の子
が幼少期に
塔頭の本誓
院で手習い
を受けた縁
で位牌や手
習いの机を
保管。本堂は
家政が寄進し
たもの。また書院は関ヶ原の戦いの折、東軍が軍議を開いた場所でもある。



所 江南市前飛保町寺町202
0567-541111



六正勝の子
が幼少期に
塔頭の本誓
院で手習い
を受けた縁
で位牌や手
習いの机を
保管。本堂は
家政が寄進し
たもの。また書院は関ヶ原の戦いの折、東軍が軍議を開いた場所でもある。



南大門は
愛知県内最古の楼門
甚目寺観音
（鳳凰山甚目寺）
法隆寺や四天王寺につぐ国内有数の歴史ある寺院。尾張四観音のひとつで、徳川家康が名古屋城の鬼門の方角にあたる四つの寺院を「尾張四観音」と定め城の守護とした。南大門の仁王像はあま市二ツ寺に生まれた福島正則が清洲（清須）城時代に奉納したもの。

あま市



所 清須市朝日城屋敷1-1
0562-40097330



天主閣が建ち、西岸には発掘された石垣の復原展示や古城址が残る。



清洲（清須）は戦国時代、尾張の中心地として栄え、城は織田信長をはじめ数多くの武将が城主を務めた。現在、五条川東岸には城の歴史を展示する天守風資料館（清洲城）がある。

清洲（清須）城
清須市



信長はこの城から、桶狭間に出陣した！



尾張

江戸時代、東海道の旅人も立ち寄ったそんな
桶狭間古戦場
伝説地

豊明市



所 豊明市栄町南館1-1
0562-9218317



桶狭間の戦いで今川義元が討ち取られた場所といわれる（国史跡）。江戸時代に建立された義元墓碑、今川家重臣の子孫が建てた桶狭間弔古碑、家臣たちの討死地を示す七石表などがある。



所 稲沢市六角堂東町3-218
0567-13213971



信長が生誕した城
勝幡城
織田信長生誕の城。織田信定（信長祖父）によって築かれたが江戸時代の河川工事で消滅。城域は稲沢市から愛西市にまたがったとされる。名鉄勝幡駅北口には推定復元模型が展示されている。

稲沢市・愛西市



所 稲沢市平和町城之内地区
0567-3321111



朱塗りの社殿が左右対称に並ぶ様は、壮観！
津島神社
疫病災難除けの牛頭天王信仰の総本社。信長をはじめ、秀吉、松平忠吉（家康四男）にも厚く信仰され社殿の造

津島市



所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-2289131

一宮市

木曾川資料館
所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-6875197



黒田城

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将・山内一豊の出生地のひとつとされる。現在は小学校敷地。冠木門が建つ。小学校の西方にある木曾川資料館では黒田城の絵図や一宮市ゆかりの戦国武将を紹介している。

所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-2289131

一宮市

木曾川資料館
所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-6875197

黒田城

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将・山内一豊の出生地のひとつとされる。現在は小学校敷地。冠木門が建つ。小学校の西方にある木曾川資料館では黒田城の絵図や一宮市ゆかりの戦国武将を紹介している。

所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-2289131

一宮市

木曾川資料館
所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-6875197

黒田城

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将・山内一豊の出生地のひとつとされる。現在は小学校敷地。冠木門が建つ。小学校の西方にある木曾川資料館では黒田城の絵図や一宮市ゆかりの戦国武将を紹介している。

所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-2289131

一宮市

木曾川資料館
所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-6875197

黒田城

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将・山内一豊の出生地のひとつとされる。現在は小学校敷地。冠木門が建つ。小学校の西方にある木曾川資料館では黒田城の絵図や一宮市ゆかりの戦国武将を紹介している。

所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-2289131

一宮市

木曾川資料館
所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-6875197

黒田城

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将・山内一豊の出生地のひとつとされる。現在は小学校敷地。冠木門が建つ。小学校の西方にある木曾川資料館では黒田城の絵図や一宮市ゆかりの戦国武将を紹介している。

所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-2289131

一宮市

木曾川資料館
所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-6875197

黒田城

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕えた武将・山内一豊の出生地のひとつとされる。現在は小学校敷地。冠木門が建つ。小学校の西方にある木曾川資料館では黒田城の絵図や一宮市ゆかりの戦国武将を紹介している。

所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-2289131

一宮市

木曾川資料館
所 一宮市木曾川町黒田宇土城
0568-6875197

一宮市



ひでよしくん

名古屋

名古屋は、わしのうまれ故郷だがや。
上様(信長)も縁深く、
又左殿(前田利家)も、
虎之助(加藤清正)も同郷じや。
しかし今の名古屋の発展は
家康殿が名古屋城を
築いてからじや。見事なり！



二十世紀によみがえった
城郭御殿の最高傑作



名古屋城

豊臣家へののらみと備えを目的に
徳川家康が天下普請で築いた名
城。家康は築城とともに城下町も
整備し、これにより尾張の首府は
名古屋に移った。現在、天守は閉館
中だが、平成三十年(二〇一八)に完
成した本丸御殿が見どころ。建物各
所に光る伝統工法の技と各部屋を
飾る狩野派絵画の障壁画からは、
徳川將軍家の威光と近世武家文化
の美意識を堪能できる。

所名古屋市中区本丸1-1
052-231-1700



家康遺品や
至高の大名道具がそろった

徳川美術館

徳川家康の遺品を中核とする尾張
徳川家代々の遺愛品をはじめ、信
長・秀吉の天下人ゆかりの所蔵品
や、国宝「源氏物語絵巻」、国宝・重
文の刀剣、武器、茶道具など多様な
大名道具を展示する。

所名古屋市中区徳川町10-17
052-635-6262



草薙神剣を
ご神体とする古社

熱田神宮

創建から一九〇〇年以上の歴史を
誇る古社。「熱田さん」の名で崇敬
され、朝廷をはじめ数多くの武將
たちの信仰を集めた。織田信長が
桶狭間の戦いの後、戦勝御礼のため
に寄進した
築地堀「信
長堀」が現
存する。ま
た御神体が
草薙神剣と
いうことか
ら熱田神宮
には古くか
ら刀剣が寄
進された。それら神宮の所有する
刀剣約四五〇口を毎月入れ替えて
展示する「剣の宝庫草薙館」も
見どころ。



所名古屋市中区熱田区神宮1-1-1
052-671-4151



戦国一の大出世人
秀吉の生誕地

豊國神社

明治十八年(一八八五)豊臣秀吉を
御祭神として祀る神社として中村



秀吉産湯の井戸や
御手植えのヒイラギ

太閤山常泉寺



所名古屋市中村区中村町
木下屋敷中村公園内
052-411-0003



中村公園の東側に立地する。江戸
時代の書物には常泉寺境内に「太閤
屋敷」があり、秀吉がこの地で生ま
れたと伝えられる。慶長年間(一六

加藤清正が
生誕地に再建した寺

正悦山妙行寺

もとは現在地より東方にあった
が、慶長十五年(一六一〇)名古屋
城築城のため、名古屋
に滞り、これにより尾張の首府は
名古屋に移った。現在、天守は閉館
中だが、平成三十年(二〇一八)に完
成した本丸御殿が見どころ。建物各
所に光る伝統工法の技と各部屋を
飾る狩野派絵画の障壁画からは、
徳川將軍家の威光と近世武家文化
の美意識を堪能できる。



所名古屋市中村区中村町
字木下屋敷47
052-412-3467



〇〇〜一六二五に加藤清正が豊國
大明神の廟宇として創建した。本尊
は大坂城にあった豊太閤像を清正
がもらい受け、鎮座した。境内には
衣冠束帯姿の秀吉像をはじめ、秀吉
が生まれた
ときに汲ん
だという「豊
太閤産湯の
井戸」、秀吉
が植えたとい
う「御手植
えのヒイラ
ギ」がある。

入場無料！
充実の戦国資料館

名古屋市中村区中村町茶ノ木2-5 中村公園文化プラザ

中村公園内
の複合施設
「中村公園文
化プラザ」2
階に位置する。
織田信長の
登場から豊臣
家の滅亡ま
で、さらに豊
臣秀吉や加
藤清正ら尾張
の武將たちについて絵画、工芸、文
書などの資料や映像などで紹介す
る歴史博物館。常設展示以外に
も特別展示室ではテーマを変えて
秀吉や清正に関連する企画展
示を開催している。



所名古屋市中村区中村町
字木下屋敷22
052-412-3362



名古屋



ひでなぐん

ここが戦いの
クライマックスの地



桶狭間古戦場公園



織田信長と今川義元が戦った桶狭間の戦いの激戦地。織田軍に攻められ討ち取られた義元最期の地。園内には、信長・義元の銅像やジオラマ、戦いの紹介動画が視聴できるARマーカーが設置され、他にも首洗いの泉、触ると熱病に罹ると伝わる馬つなぎ杜松などがある。

所 名古屋市中区桶狭間北3
052-755-3333
桶狭間古戦場観光案内所



若き家康、
ミッション大成功！
大高城

桶狭間の戦いの前哨戦において、今川軍に属していた若き徳川家康（当時松平元康）が兵糧入れを行った城。曲輪跡や空堀の遺構が残る。城下の道筋は戦国の名残りで丁字路や細い路地が入り組む。

所 名古屋市中区大高城山
052-755-33242
天高観光案内所・土日のみ



所 名古屋市中区有松3008
052-621-0111
有松鳴海協会



有松の町並み

有松は尾張藩によって設けられた茶屋集落が起源。東海道を往來する旅人が増えるに伴い、有松の絞商たちは店頭販売を行うため、間口の広い主屋を街道に面して建てた。今日も切妻屋根が連続する美しい町並みを形成し、広重の浮世絵そのままの風景が楽しめる。

武将のふるさとコラム②

有松・鳴海絞り事始め

慶長6年(1601)、徳川家康の命により江戸と京を結ぶ東海道の整備がはじめられた。このうち池鯉鮒宿(知立市)と鳴海宿(名古屋市中区)の間は二里三十町(約11.1キロ)の距離があり、往來する幕府役人や旅人は難儀していた。そのため尾張藩では入植者を募り旅人の休息を提供する茶屋集落を設置した。これが有松のはじまりだが、有松の地は耕地に乏しく茶屋集落として営みにも限界があった。

慶長15年(1610)、名古屋城築城に参じた有松の竹田庄九郎は、九州豊後(大分県)の絞りに着想を得て、有松・鳴海絞りを考案。庄九郎が生み出した絞り染めは、江戸中期以降、東海道の旅人の土産物として人気を呼び大繁盛した。豪壮な建屋が並ぶ町並みはその繁栄と絞り文化を今に伝えている。



有松・鳴海絞り(名古屋市)

武将のふるさと愛知 武将・姫ゆかりの モノがたり 名古屋編

武将のふるさと愛知では、武将や姫ゆかりの愛用品や先祖顕彰の品々が数多く伝えられている。その一部を紹介。

いろいろおどしに まいどうぐ 色々威二枚胸具足 名古屋市秀吉清正記念館蔵(P.14)

伝豊臣秀吉所用の甲冑。兜は表面に銀箔を押し、後立は法具の弘子を表している。豊臣秀吉正室北政所の甥の旗本木下家に伝来。

052-411-0035



刺繍ビロードマント陣羽織 名古屋市秀吉清正記念館蔵(P.14)

伝豊臣秀吉所用の陣羽織。舶来の裂である起毛されたビロードを用いたマントを、陣羽織として仕立て直したもの。全面に金糸や紺糸で龍、唐草、人物をあしらっている。旗本木下家に伝来。

052-411-0035

おもだか 天正沢瀉大判 貨幣・浮世絵ミュージアム

豊臣秀吉が作らせた天正沢瀉大判。裏面中央におもだか(池や沼に生える植物)の紋が打たれている。裏の墨書きは所持人で、秀吉から大名に下賜され、手形の裏書と同様に人手に渡るとに名前や花押が記されていた。

所 名古屋市中区錦3-21-24
三菱UFJ銀行名古屋ビル 1階
052-300-8686



徳川家康三方ヶ原戦役画像 徳川美術館蔵(P.14)

従来は、徳川家康が三方ヶ原の戦いの敗戦を肝に銘じ自戒のため描かせたとされ、別名「顰像」とも呼ばれた。しかし史料的な根拠がなく、近年は、目を見開き歯を見せる怒怒の表情や片足を上げ頬に手を当てる「半跏思惟」の姿から家康を神として祀る礼拝像であったという説が提起されている。

052-935-6262

むらさきじあおいもんつきあおい 紫地葵紋付葵の葉模様辻ヶ花染羽織 徳川美術館蔵(P.14)

「辻ヶ花」は、室町時代後期から江戸時代初期にかけて流行し「まぼろしの辻ヶ花」とも呼ばれた絞り染め。舶来の希少な生地を用いた武将が多い中、家康は国産の辻ヶ花染の胴服を愛用したという。高貴な紫の地に二葉葵が散らされた意匠が特徴的。重要文化財。

052-935-6262



くまげ うえくろいとおどぐ 熊毛植黒糸威具足 徳川美術館蔵(P.14)

徳川家康所用の具足。桐製黒漆の大きな水牛の角を象った脇立が兜の両側に高く突き出し、全体に熊の毛皮を貼り付け、黒糸で威している。尾張徳川家蔵帳には「東照宮(家康)御召」とあり、名古屋城小天守内に特別の場所を設け安置していた。

052-935-6262

知多

わたしの故郷・知多エリアは、はるか昔から人やものが盛んに行き交った海の道。嫡男の家康殿も、桶狭間の戦いの前や本能寺の変の危機の際に訪れたとか。



おだいちゃん



宇宙という
壮大な山号を持つ寺
宇宙山乾坤院

東浦町
於大



乾坤院付近の散策スポット
於大公園・
於大のみち

東浦町

乾坤院の北東部に隣接する広大な自然公園。四季折々の花や野鳥が集う。公園の南を流れる明徳寺川沿いには於大のみちと名付けられた歴史散策路がある。沿道には約四〇〇本の八重桜が植えられている。

所 知多郡東浦町緒川沙弥田4
056218312506



所 東浦町大字緒川字沙弥田21
05621846166
於大園こはな庭



徳川家康生母が
生まれた城

東浦町

於大

十六年ぶりに
再会した母と子

阿久比町

於大

緒川城
水野氏の居城跡。於大の生誕碑が
建ち、土塁の一部が残る。

所 知多郡東浦町緒川古城
05621821188
東浦町郷土資料館



坂部城

徳川家康生母・於大は、松平広忠(家康父)と離縁させられた後、坂部城主久松俊勝(長家と再婚した。桶狭間の戦いに向かう家康(当時)は元康)がこの地を訪ね、母と再会したと伝わる。曲輪跡や土塁が残る。

所 阿久比町大字卯坂字栗ヶ木谷321
056014811111
阿久比町教育委員会社会教育課



於大ゆかりの花かつみが
色鮮やかに咲く

花かつみ園

阿久比町

於大



「花かつみ」とは、野花しょうぶのこと。於大が家康の武運長久を願う、花かつみの「かつ(勝つ)」に思いを捧げたと言われる。一時は幻とされたが保存会の努力により六月に紫色の花を咲かせている。



徳川三代将軍の
母が最初に嫁いだ城
大野城
織田信長妹お市の三女・江は、秀吉の命により大野城主佐治一成に嫁ぐが、後に離縁させられた。さらに羽柴秀勝(秀吉養子)、徳川秀忠(後、二代将軍)に嫁ぎ、三代将軍家光を産んだ。城址に建つ天守風展望台からは伊勢湾のパノラマビューが楽しめる。

所 常滑市金山字城山
0569355111
常滑市役所



秀吉、常滑焼陶工を招く

天正13年(1585)、兄秀吉によって大和・和泉・紀伊の三ヶ国を与えられた豊臣秀長は、大和郡山に入部した。秀吉とともに茶の湯に通じていた秀長は、常滑から陶工の与九郎を招き、大和赤膚山(奈良市五条山)の陶土で茶器を焼かせたという。これが現在も奈良県で焼かれている赤膚焼のはじまりとされる。戦国時代、茶の湯の隆盛とともに各地の窯業地では茶道具が生産された。常滑では「不識」と呼ばれる水差が焼かれたと考えられているが、茶陶生産は江戸

時代後期
になるまで普及し
なかったという。



土管坂(常滑市)

鎌倉殿の父が眠る

野間大坊

美浜町

信濃

鎌倉幕府を開いた源頼朝の父義朝が眠る寺。義朝の墓や頼朝寄進の大門をはじめ、狩野探幽の手による「義朝最期図」を拝観できる客殿は伏見城の遺構を移築したものと伝わる。また羽柴秀吉との戦いに

所 半田市東郷町241
05692110268



家康が危機脱出後に
立ち寄った寺
天龍山常楽寺

半田市

信濃

桶狭間の戦
いの敗報を
受けた家康
(当時は元
康が、岡崎
へ向かう途
中立ち寄っ
たとされ
る。その際、
家康から贈
られた鍔物
製の鞍と鎧が
寺宝として
伝えられ
る。さらに
家康は本能
寺の変後、
伊賀越えで
危機を脱し
た際も立ち
寄ったとい
われる。

織田長益の
未完の土の城
大草城
信長弟・織田長益(有楽斎)が築いた城だが、城の完成を待たず長益は移封となり廃城となった。二の丸を囲む土塁や堀がほぼ良好な形で残る。本丸跡地に建つ天守風展望台からは伊勢湾を一望できる。

所 知多市大草字
東屋敷11011
056213333151
知多市緑(花)の推進課



八丁味噌事始め

豆味噌は古くから東海地方で造られていた。桶狭間から落ちのびた今川義元の家臣が岡崎の寺で味噌造りを学んだ。その子孫が岡崎城より西へ八丁(約870m)の距離にある旧八丁村(現八帖町)で味噌屋を創業したのが八丁味噌の起源。創業地では今なお伝統製法による味噌が造られている。



味噌蔵(岡崎市)



歴代將軍の等身大の位牌を安置する
成道山大樹寺
徳川將軍家松平家の菩提寺。桶狭間の戦いに敗れ岡崎に逃げ帰った若き徳川家康(当時松平元康)は、大樹寺で自害を考えたが住職から「厭離穢土欣求淨土」と教え諭され思いとどまった。この言葉は家康

岡崎市

徳川家康

の旗印にもなった。家康をはじめ歴代將軍の等身大の位牌が安置されている他、家康祖父が建立した多宝塔、岡崎城天守を望める伽藍配置など見どころも多い。

所岡崎市鴨田町広元5-1
0564-21-3917



家康は出陣前に必ず参詣した

伊賀八幡宮

岡崎市

徳川家康

安城松平家の氏神。徳川家康は、大きな合戦の時には必ず参詣したといわれ、徳川家の武運長久・子孫繁栄の守護神とされた。家康が造営した本殿を三代將軍家光が増改築し、東照大権現を祀った。本殿、拝

少年時代の家康が学問にはげんだ寺
二村山法蔵寺
家康が幼少の頃、手習いや学問にはげんだ寺。硯箱、机などの遺品が

岡崎市

徳川家康

所岡崎市明大寺町耳取44
0564-51-2930



手相までわかる家康の手形は必見。

朱塗り極彩色の楼門に圧倒される
六所神社
もともとは松平家の氏神として松平郷に創建。徳川家康の誕生時には産土神とされた。江戸時代、三代將軍家光が社殿を再建。本殿、幣殿、拝殿、桜門、神供所は国の重要文化財に指定されている。

岡崎市

徳川家康



殿、随神門は国の重要文化財に指定されている。
所岡崎市伊賀町東郷中8-6
0564-26-2789



日光、久能山と並ぶ日本三大東照宮
滝山東照宮
三代將軍徳川家光により岡崎城の鬼門を守護する滝山寺の境内に創建された。日本三大東照宮のひとつ。本殿のほか、拝殿、幣殿など国の重要文化財に指定されている。社殿内部も拝観可能。滝山寺は、連慶、湛慶の聖観音、梵天、帝釈天三尊像を寺宝とする古刹。

岡崎市

徳川家康

所岡崎市本宿町寺山1
0564-48-2636



所岡崎市滝山籠1-17
0564-46-2516



西三河

西三河エリアは、この家康の生まれ故郷であり、わしを支えてくれた三河武士のふるさとである。わが父祖たちがたどった

松平郷、安城、岡崎には松平・徳川のパワースポットが目白押しじゃ。



いえやすくん



徳川家康が生まれた神君出生の城
岡崎城
徳川家康が生誕した城。天守内部では、ストーリー性ある展示、臨場感あふれるAR体験、魅力満載の映像シアターなど、大人から子供まで楽しめる展示内容となっている。

岡崎市

徳川家康

天守以外にも家康産湯の井戸や石垣、三河武士のやかた家康館など見どころ多数。

所岡崎市康生町56-1
0564-22-2122

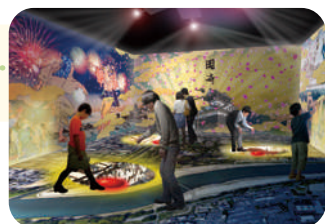


家康の事績と三河武士の活躍を展示
三河武士のやかた家康館
徳川家康の出生から天下統一までと、それを支えてきた三河武士たちの活躍を紹介する歴史博物館。令和6年3月のリニューアル後、地下1階の常設展示では、人気のジオラマシアターや長槍や火縄銃のレプリカ体験コーナーはそのままだに、家康と三河武士たちの事績を最新の研究成果と新たな視点を取り入れて展示解説が全面更新。また1階では季節に応じた企画展をはじめ、各種映像コンテンツを上映する「家康館シアター」も設置されている。

岡崎市

徳川家康

所岡崎市康生町56-1
0564-22-2122



西三河



家康の祖先、
松平氏発祥の地

松平東照宮

豊田市

かつて松平郷松平氏の館跡地にての地の八幡社と東照権現を合祀し創建。館跡の堀や石垣が残る。境内の産湯の井戸は松平家男子誕生の際に使われ、家康誕生時も岡崎城



本殿 天井画

復元事業が着々と進む

西尾城

西尾市



西尾城跡を歴史公園として整備。本丸丑寅櫓をはじめ、二の丸天守台、丑寅櫓、屏風折れ土塀などが復元され整備が進む。幕末京都に建てられ移築した旧近衛邸では西尾名産の抹茶サービス（二服450円）がある。

所 西尾市錦城町23-1
0566354-6758
(旧近衛邸)

吉良上野介が眠る寺

片岡山華蔵寺

西尾市

高家旗本の吉良氏の菩提寺。徳川



家康の従兄弟にあたる吉良義定が創建。義定の曾孫が上野介義央。地元では名君として親しまれている。毎年十二月十四日の命日には

義央の木像が公開される。
所 西尾市吉良町岡山山王59
0566354-0000



まで早馬で運んだといわれる。四季の草花を描いた本堂の天井画も見。 所 豊田市松平町赤原13
0566581-6221

本堂は日光東照宮造営に携わった幕府御大工の手による

本松山高月院

豊田市



松平家の菩提寺。徳川家康の祖先、松平氏初代と二代の墓所がある。家康をはじめ歴代將軍の手厚い保護を受けた。山門や本堂は三代將軍家光によって建立された。 所 豊田市松平町寒ヶ入44
0566581-6229



戦国期の山城の姿を忠実に再現

足助城

豊田市

三河と信州を結んだ街道を眼下に収める真弓山山頂に築城された。



織田、今川、松平氏の激戦地跡
安城城(安祥城)

安城市



武田家、徳川家の争奪戦が繰り広げられた。発掘調査に基づく時代考証によって推定復元された建物が揃い、戦国時代の山城の実像を知るには最適である。 所 豊田市足助町須沢39-2
0566581-6270
城跡公園足助城



家康も手を焼いた
三河一向一揆の拠点
雲龍山本證寺

安城市

若き徳川家康(当時は松平元康が本願寺教団の門徒と争った三河一向一揆。その拠点のひとつ。太鼓櫓や堀を備えた造りは城郭伽藍とも呼ばれ貴重。 所 安城市野寺町野寺26
0566999-02221



於大がしばしば参詣した寺
神守山楞嚴寺

刈谷市



椎の木屋敷に居住していた於大が、しばしば参詣した。於大の姿を伝えた「伝通院画像」の他、ゆかりの品々が寄進されている。刈谷水野家はこの寺に帰依し、菩提寺とした。 所 刈谷市天王町67
0566211-1974



色鮮やか、
三河のあじさい寺

瑞雲山本光寺

幸田町

徳川家康を支えた松平分家のひとつ深溝松平家の菩提寺。この家は、江戸時代になって三河吉田、刈谷、丹後福知山、肥前島原と転封を繰り返したが歴代当主の遺体を必ず本光寺に運び埋葬した。累代の墓所が残る。



所 額田郡幸田町深溝内山1-7
05664621-6266



一人が秀吉の養子となった於義丸(後の結城秀康)。知立神社は、三河国二宮として崇められた名社。本殿をはじめとする六つの建造物が国の登録有形文化財。境内にある多宝塔は国の重要文化財となっている。 所 知立市西町神田12
0566811-0055



於大が一時住まいした
屋敷跡

椎の木屋敷跡

刈谷市



徳川家康の生母である於大が、松平広忠(家康父)に離縁されて実家水野家に戻された際、刈谷城外の高台に居住した。当時大きな椎の木が茂っていたのでその名が付いた。現在は東屋と於大の方の座像を配した庭園として整備されている。

所 刈谷市銀座6-58-18
0566621-1037
(刈谷市文化観光課)



徳川家康と武田信玄・勝頼

文 平山優（歴史学者）

家康最大の敵

武田父子

徳川家康の生涯のなかで、武田信玄・勝頼父子との抗争に明け暮れた十四年間ほど苦難に満ちた時代はない。なぜなら、大國武田に、家康はいつ滅ぼされてもおかしくなかったからだ。永禄十一年（一五六八）、信玄と同盟を結び、今川氏真を滅ぼした家康だったが、今川領分割をめぐる武田と信玄と決裂し、元龜元年（一五七〇）には、事実上の敵対関係に陥った。

家康は、信玄に対抗すべく、上杉謙信と同盟を結んだため、信玄の怒りは凄まじかったが、武田は当時同盟を結んでいた織田信長の面子を考慮し、徳川攻めを自重した。だが、元龜三年（一五七二）、信玄は信長と断交し、家康を攻め、反織田・徳川勢力とともに、西に向かう決断を下す。

なすべない家康

元龜三年（一五七二）十月、信玄は三年間我慢してきた徳川攻めに踏み切る。それは、同盟国信長にも告げぬ奇襲であった。信長は激怒し、家康は戦う決意を固めたが、十二月、家康は三方原合戦でなすべなく武田軍に撃破された。その後、信玄はまもなく病死したが、その息子勝頼の鋭鋒も厳しく、天正三年（一五七五）までに、家康は領国の三分の二を失う痛手を受け、徳川家中からも武田に内通する動きがでるなど、危機の連続だった。

天正三年（一五七五）五月、家康は信長の援軍を受けて、武田勝頼を三河長篠合戦で撃破し、失地回復に努めることができるようになった。それでも、武田の実力は侮れず、遠江全域の奪回には、さらに五年の歳月が必要だった。

遣臣を召し抱え、軍事力と内政を充実させ、五力国を領有する大名へと成長していく。武田氏との十四年に及ぶ戦いは、家康にとって苦しい試練であった。だがこれを勝ち抜き、武田遣臣を召し抱えることで家康は、豊臣秀吉と戦っても引けを取らぬ実力を保持することが出来たといえる。

著者プロフィール



平山優（ひらやま ゆう）

東京都出身。立教大学大学院文学研究科博士前期課程史学専攻（日本史）修了。現在、健康科学大学特任教授、甲州市文化財審議委員、南アルプス市文化財審議委員、戦国宇喜多家を顕彰する会アドバイザー等をつとめている。

一九八八年NHK大河ドラマ「武田信玄」時代考証の資料提供、二〇一六年NHK大河ドラマ「真田丸」時代考証、二〇二二年映画「信虎」武田家考証、二〇二三年NHK大河ドラマ「どうする家康」時代考証を担当。

主著に『長篠合戦と武田勝頼』『検証長篠合戦』『武田氏滅亡』『新説・家康と三方原合戦』『徳川家康と武田信玄』『徳川家康と苦難に満ちた生涯』など。



▲野田城址（新城市）：武田信玄は家康を撃破した後、東三河の野田城を攻囲した。城内の井戸の水源を断ち城を開城させたという逸話が伝わる。



▲設楽原古戦場（新城市）：織田・徳川連合軍が陣を敷いた弾正山山麓に復元された馬防柵。

しかも、その間の天正七年（一五七九）、家康は、息子信康謀叛という事件に震撼する。信康は、五徳（信長息女）を正室としていたが、夫婦仲が悪かったという。そのころ、武田方より調略の手が伸び、何と家康正室築山殿までが関与していたという。信康は、父家康、義父信長に不満を抱き、武田と結んで叛乱を計画していたのではないかと推定されている。だがこれは発覚し、家康は信康と築山殿を処断した。家康にとって、生涯最大の痛恨事とされる信康事件の影にも、武田の姿が見え隠れしている。

武田が家康に残したもの

だが家康は、勝頼と対立した北条氏政と結び、武田を東西から挟撃にして、遠江高天神城などを奪回することに成功した。そして天正十年（一五八二）三月、武田勝頼は、織田・徳川・北条連合軍の一斉攻撃を受け、滅亡した。ここに強敵武田氏は消え去ったが、信玄・勝頼が育てた家臣らが多く生き残った。家康は、信長存命中は秘かに、本能寺の変後は公然と武田

手筒花火事始め

手筒花火は東三河地方を中心に伝わる花火で、450年以上の歴史がある。揚げ手が花火の筒を腰の横に両手でしっかりとつかえるように持ち、巨大な火柱を噴出させ、最後に「ハネ」と呼ばれる炎が、大音響とともに足元に噴き出す勇壮な煙火だ。

この手筒花火は豊橋市の吉田神社が発祥とされているが、その原形は、情報の伝達手段である「のろし」と考えられている。「のろし」は古くは奈良時代の頃から使われ、戦国時代も盛んに利用された。観賞用の花火は、江戸時代の元禄期以降庶民に広まったといわれ、この地域が盛んになったのは、徳川家康が三河衆に火薬の製造をまかせたことが、花火の発展につながったとされている。



手筒花火(豊橋市)

所 新城市門公字鳳来寺1
☎ 05363511004
(鳳来寺本堂)



鳳来寺山
山全体が国の名勝・天然記念物に指定されている自然の宝庫。中腹にある古刹、鳳来寺は松平広忠と於大が出陣を祈願し参籠し家康を授かったという。その逸話を知った三代將軍徳川家光により東照宮が建立された。また故郷を追われた井伊虎松(後の井伊直政)も一時匿われた。

新城市

於大(井伊直政)



所 豊橋市今橋町3
☎ 05325112430
(豊橋市観光振興課)



吉田城
徳川家康の三河統一によって四天王筆頭の酒井忠次が城主を務めた。さらに秀吉の天下統一後は家康の娘婿・池田輝政が城主を務めた。石垣や土塁が数多く残る。

豊橋市

池田輝政(酒井忠次)



所 豊川市豊川町1
☎ 05338512030



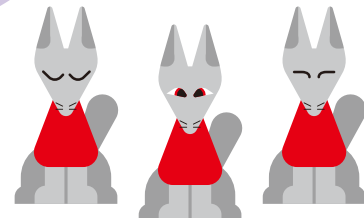
豊川稲荷
(円福山豊川閣妙厳寺)
豊川稲荷の通称で知られるが妙厳寺というお寺。庶民をはじめ織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、今川義元ら戦国武将や文人らの信仰も集めてきた。境内にある山門は義元が寄進したもの。門前町では豊川いなり寿司の食べ歩きも楽しい。

豊川市

義元

東三河エリアは、長年吉田城主を任されたこの忠次にお任せあれ。この地は吾輩も活躍した、長篠・設楽原の戦いをはじめ、三河武士が名を上げた、ゆかりの地が満載でいっぱい。

東三河



武田軍の猛攻に耐え抜いた城
長篠城
織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼が争った長篠・設楽原の戦いはこの城をめぐるおきた。堀・土塁が残る他、敷地内の長篠城址史跡保存館では合戦に関する資料を展示する。

新城市

勝頼(徳川家康)

信長・家康VS勝頼が激突！

信長(徳川家康)

勝頼(徳川家康)

設楽原古戦場・新城市設楽原歴史資料館

新城市

長篠・設楽原の戦いの最終決戦地・設楽原は史跡の宝庫。戦いに関する資料や火縄銃の展示を行う設楽原歴史資料館。古戦場跡地に復元された馬防柵・家康の本陣跡地(八剣神社)や家康物見塚などが点在する。

所 新城市竹広字信玄原552
新城市設楽原歴史資料館
☎ 053612210673
(新城市設楽原歴史資料館)



東三河



江戸時代後期の蘭学者・
渡辺華山の資料が充実

田原城

田原市

渥美半島を領有した戸田氏の居城。今川義元に奪われたが、徳川家康が三河統一の際に攻略した。秀吉の天下統一後に近世城郭に生まれ変わった。

所 田原市田原町巴江1-1-1
053-122-1720



家康、城攻めに
忍者を使う

上ノ郷城

蒲郡市

三河統一を進めた徳川家康(当時は松平元康)によって攻略された。家康は城攻めに服部半蔵の父と伊賀忍者を使つたという。若き服部半蔵も初陣を果たしている。

所 蒲郡市神ノ郷町
053-66-1120
蒲郡市観光協会へり課



巨星落つ!

武田信玄、終焉の地

宝雲山福田寺

設楽町

武田信玄の終焉の地は諸説あるが、この寺もその一つ。天正元年(一五七三)、三河に侵攻した武田信玄が野田城攻囲中に病に冒され、本国に引き上げる途中、この寺で没したと伝えられる。信玄の墓といわれる信玄塚がある。

所 設楽町田口字居立19
0536-62-1000
設楽町観光協会



展望檣からの
眺めは絶景!

田峯城

設楽町

長篠・設楽原の戦いに敗れた武田勝頼が落ちのびたが入城を拒否された逸話が残る。中世の城館を参考にした御殿や檣が模擬復元されている。

所 設楽町田峯字城9
0536-64-5555
設楽町観光協会



武将のふるさと愛知
武将・姫ゆかりの
モノがたり

西三河
東三河編

武将のふるさと愛知では、武将や姫ゆかりの愛用品や先祖顕彰の品々が数多く伝えられている。その一部を紹介。

金陀美具足(複製) 岡崎市
三河武士のやかた家康館蔵(P.19)

総体が金泥または金箔で彩られているために金陀美具足と呼ばれている。家康が大高城への兵糧入れを行った時(当時は松平元康)に着用していた具足と伝わり、大高城兵糧入具足ともいわれる。原資料は久能山東照宮蔵。☎0564-22-2122

鳥居強右衛門磔図(鳥居勝商磔殺図)
新城市設楽原歴史資料館蔵(P.25) 新城市

鳥居強右衛門は、長篠城主・奥平貞昌の家臣。武田軍の猛攻を受ける中、その包囲を抜け家康に援軍を要請。その帰路、捕らえられた。助命の条件に反し「援軍は来る」と叫び、磔にされたという。その武勇と忠義が称され描かれた図。

☎0536-22-0673



信玄砲 新城市

宗堅寺蔵・新城市設楽原歴史資料館寄託(P.25)
三方ヶ原の戦いで徳川家康を敗走させた武田信玄は、家康に味方した菅沼定盛が籠城する野田城(新城市)を攻囲した。攻囲のさなか籠城側が武田信玄を狙撃したという説がある。その際に使用されたと伝えられる銃である。木部は失われ長大な銃身だけが残っている。

☎0536-22-0673(新城市設楽原歴史資料館)



東照大権現
(徳川家康)坐像 岡崎市
大樹寺蔵(P.20)

徳川幕府の命により京都の七条仏師・康以により正保4年(1647)頃に制作されたとされる。像高47cmほどあり、黒袍を身にまとい、右手に笏を執り、太刀を佩く束帯姿。この木像は江戸前期の家康を祀る東照宮信仰の高まりのなかで幕府によって作られた(拝観有料)。

☎0564-21-3917

伝通院調度品(複製)

刈谷市歴史博物館蔵 刈谷市

於大(伝通院)が松平広忠から離縁されて刈谷に戻された際に持ち帰ったといわれる。寺伝によると、文禄3年(1594)に肖像画とともに傍嚴寺へ寄贈したと伝えられる。天目茶台(三ツ葉葵紋)、茶碗(三ツ葉葵紋彩付)、白磁香炉のほか全部で5種ある。原資料は傍嚴寺蔵。(展示替えがあります。事前にお問い合わせください)。

所 刈谷市逢妻町4-25-1
☎0566-63-6100



酒井忠次革羽織(複製) 豊橋市
吉田城鉄櫓展示(P.26)

酒井忠次が、長篠の戦いの際に鶯ヶ巣岩を奇襲した戦功により織田信長から拝領したもの。表は白地革、袖には黒・緋色ラシャで亀甲花菱紋がつけられ、裏地は赤絹地、見返しは金欄でつくられた陣羽織。原資料は公益財団法人致道博物館蔵。

☎0532-51-2430(豊橋市観光振興課)





からくり車山が
犬山城下町を練り歩く

犬山祭 犬山市

尾張徳川家の付家老犬山城主・成瀬正虎の命によって寛永12年(1635)に始まった針綱神社の祭礼。全国的にも珍しく全ての車山(13輛)にからくり人形を仕掛け、神社に奉納する。国重要無形文化財指定。ユネスコ無形文化財登録。

所 名鉄「犬山駅」西口よりメイン会場の犬山城前広場まで約20分
☎0568-61-6000



エイ、エイ、オーの
勝鬨が鳴り響く 豊明市

桶狭間古戦場まつり

桶狭間の戦いで散った織田軍、今川軍の武者たちの供養祭。見どころは300名を超える武者たちが勇ましく勝鬨を上げ行進する武者行列や合戦再現劇。

エイ、エイ、オー!

所 桶狭間古戦場伝説地、
高德院ほか
☎0562-92-8332
(桶狭間古戦場まつり
実行委員会事務局)



信長も見た!

尾張津島天王祭り 津島市

日本三大川まつりのひとつ。津島神社の祭礼として600年近くの伝統を誇る。約500個の提灯をつけたまきわら船が天王川を行く姿は華麗で幻想的。織田信長もまつり見物したとか。国重要無形文化財指定。ユネスコ無形文化財登録。

所 津島神社・
天王川公園
☎0567-28-8051
(津島市観光協会)



尾張・名古屋編



参上すべし。
いざ、祭りの現場へ

手筒花火はこの地からはじまった! 火柱が天をも焦がす
豊橋祇園祭 豊橋市

かつて吉田城内にあった吉田天王社(吉田神社)の神事。鉄砲伝来以降に手筒花火の奉納が行われた。江戸時代、三河では火薬の製造が奨励されその技術が民間に伝わり、吉田藩の庇護のもと発展した。7月第3金曜は吉田神社で神前手筒花火の奉納が行われ、土・日曜は豊川河畔で打ち上げ花火大会が開催される。

所 吉田神社内、豊川河畔、豊橋市街
☎0532-53-5528 (豊橋祇園祭奉賛会事務局)



戦国の轟音が、長篠城址に鳴り響く!

長篠合戦のほりまつり 新城市

長篠の戦いで倒れた織田・徳川軍、武田軍の将士の霊を慰めるために、両軍将士の紋入りのぼり数千本を献植して行うまつり。甲冑に身を固めた鉄砲隊による迫力ある火縄銃の演武、勇壮な長篠陣太鼓などが盛大に開催。

所 長篠城址
☎0536-29-0829
(新城市観光協会)



舞台は設楽原古戦場! よみがえる鉄砲戦

設楽原決戦場まつり 新城市

天正3年(1575)、織田・徳川連合軍と武田軍が戦った長篠・設楽原の戦い。その古戦場を舞台に火縄銃の演武や小・中学生による武者行列、子ども武者による馬防柵演武などが行われ、戦国絵巻を再現。

所 新城市設楽原歴史資料館付近
☎0536-22-0673 (新城市設楽原歴史資料館)



戦国三英傑そろい踏み! 信長、秀吉、家康が街中をゆく

名古屋まつり 名古屋市長

名古屋の秋を彩る最大の祭。まつりのメインとなる郷土英傑行列は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑が姫や家臣団を従えて街中を練り歩く。山車揃や神楽揃、華やかなフラワーカーなども登場。会場では無形文化財「棒の手」公演や芸能公演など多彩な行事も開催。

所 久屋大通公園、オアシス21、名古屋城ほか
☎052-972-7611 (名古屋まつり協会)



武将隊、忍者隊勢ぞろい!
戦国エンターテインメント

サムライ・ニンジャフェスティバル 名古屋市長

サムライや忍者の世界を満喫できるエンターテインメントイベント。忍者修行体験や、全国から集まった武将隊・忍者隊によるステージイベント、大迫力の火縄銃実演や武将グッズ販売などが開催。

所 県営都市公園 大高緑地・若草山
☎052-954-6355 (愛知県観光振興課)



城をバックに五条橋上での
一斉射撃は大迫力!

清洲城信長まつり 清須市長

鉄砲隊による火縄銃演武や時代行列、武将隊やヒーローショーステージなど盛りだくさん。

所 清洲城周辺
☎052-400-2911
(清須市観光協会)



祭り・イベント

武将ゆかりの

西三河・東三河編



その炎は境内の温度すら熱くする!

滝山寺の鬼まつり 岡崎市長

起源は鎌倉時代までさかのぼり、源頼朝が祈願のため始めたと伝えられている。春を告げ、天下泰平や五穀豊穡を祈るもので、正保4年(1647)、三代将軍徳川家光の時代に復活されて以降は徳川幕府の行事として盛大に行われるようになった。クライマックスの火まつりは大迫力!

所 滝山寺本堂
☎0564-46-2296 (滝山寺)



家康公参上!
大河効果で例年以上の盛り上がり必至!

家康行列 岡崎市長

起源は徳川四天王の本多忠勝を祀る映世明神(現龍城神社)の祭礼。公募で選ばれた家康を中心とした勇壮な武者、騎馬の絢爛豪華な行列が市の中心部を練り歩く。行進中には鉄砲隊と槍隊の演武も披露される。

所 伊賀八幡宮、乙川河川敷ほか
☎0564-64-1637 (岡崎市観光協会)

